

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
[1] 学習指導の充実向上と進路指導の充実	① 授業時数の確保に努める。	① 授業時数の確保率を78%以上にする。	評価指標による達成度	(評定)		
		② よくわかる授業を実施し、学習意欲を高め、確かな学力の向上に努める。	②-1 授業に対する満足度「ほぼ満足」以上が80%以上とする。			(所見)
			②-2 普通科の家庭学習平均時間が、1・2年生は3時間以上、3年生は4時間以上をめざす。			
		③ 進路相談を充実し、生徒一人一人の進路実現を図る。	③-1 進路検討会を年間3回以上行う。			
			③-2 個別面談を各学期1回以上実施する。			
			③-3 国公立大学への合格者を実数で100名以上にする。			
			③-4 商業科において、全商1級3種目以上取得者40%以上、就職内定率100%とする。			
		④ 学校図書館が生徒および教職員の図書の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与し、生徒の健全な教養を育成する。	④-1 図書貸出冊数を昨年度より5%増やす。			
			活動計画	活動計画の実施状況		
			① 学校行事を精選するとともに、欠講時間については可能な限り繰替授業にする。			
		②-1 「学力向上委員会」を各学期1回以上実施し、学力向上のための方策を検討する。				
		②-1 相互授業参観や授業研究会、職員研修等を年間2回以上実施して授業力の向上を図る。				
	②-1 授業評価アンケートを行い、その結果を授業改善につなげる。					
	②-2 生活記録や生活実態調査を					

		<p>通して各クラスの生徒の状況を把握し、特に学習時間の確保ができるよう助言する。生活記録の全員提出をめざす。</p> <p>②-2 放課後等に自習を行える環境を整え、主体的な学習活動ができるようにする。</p> <p>②-2 集会や面談等において学習時間の確保とその重要性を指導する。学習計画を立て、生活記録を書く習慣をつけさせる。</p> <p>③-1 進路指導検討会で模試等の分析を行い、その後の学習指導に役立てる。</p> <p>③-2 担任は面談をとおして生徒が適切な進路選択ができるように指導する。</p> <p>③-3 担任と進路課が連携し、適切な進路指導を行う。</p> <p>③-4 資格試験の受験を勧める。また、インターンシップ等体験的な活動を行う。</p> <p>④-1 図書、視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料を収集、整理する。</p>			
[2] 中高一貫教育の 推進	① 中高教職員が連携して指導内容の工夫改善に取り組み、生徒の個性や能力を伸ばさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		①-1 ESD（持続可能な開発のための教育）活動について連携し、合同の講演会や発表を年2回以上行う。		(評定)	
		①-2 中高教職員による相互授業参観や中高合同研修会を年2回以上実施する。		(所見)	
		①-3 複数の科目において中高教職員による授業交流を実施する。			
		①-4 中高一貫教育研究委員会を各学期1回実施する。			
		活動計画	活動計画の実施状況		
①-1 ESD活動を計画的に推進する。					
①-2 中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を年2回以					

		<p>上行い, 相互の理解を深める。</p> <p>①-3 数学と英語を中心に中学校の授業の一部に高校教員が入ること、併設型中高一貫教育のメリットを活かした指導法や指導体制を検討する。</p> <p>①-4 各学期の中高一貫教育研究委員会までに有効で実施可能な案を検討し、委員会では具体的な検討ができるようにする。</p>			
<p>[3] 人権尊重の意識・態度を育む「心の教育」の推進</p>	<p>①生徒の自主的な活動を推進する。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	
		<p>①-1 人権 HR 学習を年6回(3年生は5回)実施する。</p>		(評定)	
		<p>①-2 「富東人権新聞」を年6回発行、アピール放送を年2回実施する。</p>			
		<p>①-3 生徒対象の人権教育関連行事を年1回以上実施する。</p>			
		<p>①-4 生徒対象アンケートで「人権問題について意識し、差別をなくすために行動したい」とする回答合計が80%以上になることをめざす。</p>			
	<p>②学校・家庭・地域・関係機関との連携の緊密化と協力体制を構築する。</p>	<p>②-1 人権問題研修会を教員対象年3回以上、PTA対象年1回以上実施する。</p>			
		<p>②-2 保護者・教職員対象アンケートで「人権を尊重するための様々な取組が行われている」が80%以上をめざす。</p>			
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		
		<p>①-1 人権教育ホームルーム活動を充実させ、展開等の工夫をする。</p>			
		<p>①-2 月1回の「富東人権の日」に「富東人権新聞」やアピール放送を使って啓発する。</p>			
		<p>①-3 講演会等の企画の他、ポスター・標語の作品展示を通して啓発する。</p>			
		<p>①-4 卒業時にアンケートを実施し、入学時との意識の変化に</p>			

		<p>ついて考察する。</p> <p>②-1 講師を招いての講演会を企画したり，生徒のアンケート結果を考察したりして，教職員の人権意識を高める。</p> <p>②-2 講師を招いての講演会等の企画をし，保護者への参加を呼びかける。</p> <p>②-2 「富東人権新聞」を家庭に持ち帰り，保護者にも読んでもらい人権意識の高揚を図る等の継続的な啓発を行う。</p>			
<p>[4] 豊かな心を育む 生徒指導</p>	<p>① 挨拶，マナー等の基本的な生活習慣の確立と定着をめざす。</p> <p>② いじめや体罰を防止し，速やかに対応する。</p> <p>③ 教育的支援が必要な生徒を学校全体で支えていく体制を確立する。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	
		<p>①-1 年間遅刻回数 20 回以上の生徒を 0 人にする。登校日の遅刻者 0 人の日の割合を 20 % 以上とする。</p>		(評定)	
		<p>①-2 身だしなみをきちんとできていると自己評価する生徒の割合を 90 % 以上にする。</p>			
		<p>② いじめと体罰に関するアンケートを各学期 1 回実施する。</p>			
		<p>③ 支援が必要な生徒に関する情報の共有を図る会を各学期 1 回及び教員研修を年 1 回実施する。</p>			
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		
		<p>①-1 全教職員間で共通理解を図り，望ましい生活習慣の育成に努める。多遅刻者には，保護者への連絡を密にする。</p>			
		<p>①-2 服装・頭髪・マナーについて集会や HR での指導を通して自覚を高める。挨拶の励行や清掃活動への自主的な取組を促す。</p>			
		<p>② いじめ問題について集会や HR での指導を通して啓発を行う。</p>			
		<p>③ 担任・教科担任・学年主任の連携を密にし，生徒の指導や支援にあたる。また，外部講師による教員研修を実施し，支援を必要とする生徒の共通理解を図る。</p>			

<p>[5] 特別活動の充実</p>	<p>①部活動や生徒会活動等で自主的活動の育成を図ることと、文武両道のさわやかな校風を樹立する。</p> <p>②ボランティア活動を充実させ、心豊かな人間性を育てる。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 生徒会新聞を年3回以上発行し、生徒会や各種委員会の活動をPRする。</p> <p>①-2 球技大会のアンケートで満足度を75%以上にする。</p> <p>①-3 部活動に入部していない生徒を10%以下にする。四国大会以上の大会への出場部数を7部以上にする。</p> <p>②-1 学校周辺の清掃ボランティアを年2回以上実施する。</p> <p>②-2 地域のボランティア活動を年4回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 生徒会活動や各種委員会活動を活発にする。</p> <p>①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。</p> <p>①-3 中高の部活動の交流を活性化させることで、協同の精神を育成する。部活動紹介等を充実させることで入部率を上げる。</p> <p>② 地域の防災避難訓練、成人式等のボランティア活動を通して社会貢献の意識を高め、奉仕の精神を育成する。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>		
<p>[6] 心身ともに健康・安全をめざす環境教育・安全教育・食育の推進</p>	<p>①心身の健康管理と健康増進の積極的指導を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 「ほけんだより」を年8回以上発行する。感染症予防啓発を年3回以上行う。</p> <p>①-2 学校保健委員会を充実させ、年2回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>		

② 高校期によりよい食習慣を身につけさせて生活習慣病予防や生活の質の向上を図る。

②-1 夏期休業中の健康力アップ30日作戦を利用して習慣付けを図る

②-2 栄養指導の専門家による講演や指導を年2回実施する。

③ 防災意識の高揚と環境美化に積極的に取り組む。

③-1 避難訓練を各学期1回以上実施する。

③-2 アンケートで「校内美化活動に積極的に取り組んでいる」の割合が80%以上とする。

③-3 電気・水道使用量を昨年度より5%削減させることをめざす。

④ 安全な登下校の徹底をめざす。

④ 交通事故防止に努め重大事故年間0件をめざす。

活動計画

活動計画の実施状況

①-1 「ほけんだより」を発行し、感染症への予防意識を高めるなど、健康教育を推進する。健康診断の円滑な実施を行う。

①-2 保健委員がこまめに手洗い石けんやアルコール消毒液の補充に努める。保健委員会が中心となり富東祭での保健展を充実させる。

②-1 今年度は、食生活についての課題やテーマに統一させて健康力アップ作戦を実施する。

②-2 体育祭や球技大会を利用して、熱中症予防や食事と健康について専門家に講演を依頼する。

③-1 地震や津波に対する備えや対策について学び、自助と共助の精神を養う。多様な訓練を実施し、命を守るための実践力を養う。PDCAサイクルを確立し、より実践的な避難訓練とする。

③-2 毎日の清掃活動を「5分前」

		にとりかかる姿勢を身につけ、校内の環境美化に取り組む。ゴミ削減のため、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。				
		③-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。				
		④ 交通マナー、事故防止について集会やHRで指導を行う。				
[7] 家庭・地域社会との連携による「開かれた学校づくり」の推進	① ホームページを利用して積極的な情報発信を行う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
		①-1 ホームページのアクセス数が年間15万件以上になるようにする。		(評定)		
		①-2 ホームページの更新回数は、年間150回以上とする。		(所見)		
		①-3 「ひがし倶楽部」を年3回発行し、小中学校に配布する。				
		② PTA、同窓会、地域社会との連携を図る。	②-1 PTA総会の保護者参加率50%以上をめざす。			
			②-2 各学年の「保護者対象進路説明会」保護者参加率50%以上をめざす。			
	②-3 中学生体験入学300名以上、公開授業500名以上、文化祭一般公開日の来校者数は、昨年度超え(1000名以上)をめざす。					
	②-4 環境や防災に関する講演会、地域との合同避難訓練の参加者(保護者及び地域の方々)の数を合計100名以上にする。					
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 更新回数を増やすことで、アクセス数を増やす。				
	②-1 学校の各種活動に関心を高めてもらえるようHPの活用を図る。					
	②-2 進路に関する情報提供を積					

		<p>極的に行う。</p> <p>②-3 HP や学校訪問等により、本校の広報活動を広く行う。</p> <p>②-4 環境や防災に関する講演会を各1回ずつ実施し、地域や保護者に対する啓発に貢献する。</p> <p>②-4 自主防災組織との合同訓練を行うことで、地域住民との連携を図り、共助の精神を養う。</p> <p>②-4 防災クラブが中心となって避難経路の清掃を実施し、地域の美化と安全に貢献する。</p>			
<p>[8] 教職員の資質向上</p>	<p>①教職員が自発的・積極的に校内外の研修に参加し、自己研鑽に努める。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	
		<p>①-1 相互授業参観を年2回以上、研究授業及び授業研究会を年2回以上実施する。</p>		<p>(評定)</p>	
		<p>①-2 教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」、「授業に様々な工夫をしている」と答えた生徒がそれぞれ80%以上とする。</p>		<p>(所見)</p>	
		<p>①-3 外部講師による職員研修会を年間5回以上実施する。</p>			
		<p>①-4 校外における研修（指導力向上研修等）に10名以上参加する。</p>			
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		
		<p>①-1 授業研究や相互参観授業を効果的に実施し、授業力向上に活かす。</p>			
		<p>①-2 教材研究にあてる時間を確保し、アクティブラーニングやICTの活用を積極的に取り入れる。</p>			
<p>①-3 教育相談、学力向上等に関する研修会を実施する。</p>					
<p>①-4 校外研修を教職員に広報し、研修を勧める。</p>					

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[1] 学習指導の充実向上と進路指導の充実	① 授業時数の確保に努める。	① 授業時数の確保率を昨年度以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 1 学年の教科の時数で+6, HR活動+73, 総学+24であった。ESDの関係でHR活動と総学の時数が増加したと考えられる。 	B	① 全体的に校長を中心に教職員が力を合わせ、よくがんばっている。アンケートにも肯定的な意見が多いが、個々には課題も多い。マンネリになっている面がある。 ② 進学・就職実績はよい結果である。生徒の能力を伸ばし、チャレンジの進路希望を実現させる体制のために、保護者の理解とともに教職員の意識と力量を上げていくことが必要である。全国の動きを見ながら、どう教育をするのか学校の進むべき方向を考えていくべきである。 ③ 生徒がお互いに切磋琢磨し、難関大にチャレンジしていく雰囲気作りをしてほしい。 ④ 本当に行きたい大学に挑戦することが大切で、失敗も生きてくる。富東の独自性を伸ばして、県南の雄として地域の皆さんに慕われる学校にしてほしい。 ⑤ 県内外就職100%は喜ばしい結果である。
		②-1 授業に対する満足度「ほぼ満足」以上が80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業に対する満足度は「おおよそ満足」以上が75%であった。 	B	
	② よくわかる授業を実施し、学習意欲を高め、確かな学力の向上に努める。	②-2 普通科の家庭学習平均時間が、1・2年生は3時間以上、3年生は4時間以上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は4月2.3時間, 6月3.1時間, 9月2.4時間, 11月2.1時間, 年平均2.5時間, 2年生は4月2.3時間, 6月3.2時間, 9月2.6時間, 11月2.6時間, 年平均2.7時間, 3年生は4月2.6時間, 6月3.9時間, 9月3.7時間, 11月3.6時間, 年平均3.5時間であった。 	B	
		③ 進路相談を充実し、生徒一人一人の進路実現を図る。	③-1 進路検討会を年間3回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> 7月,10月,12月,1月の計4回行った。 	
	③-2 個別面談を各学期1回以上実施する。		<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回以上行った。 	A	
	③-3 国公立大学への合格者を実数で100名以上にする。		<ul style="list-style-type: none"> センター試験を課さない推薦入試により6名合格した。最終的な国公立大学合格者は実数で98名であり、昨年度より5名多い。 	B	
	③-4 商業科において、全商1級3種目以上取得者40%以上、就職内定率100%とする。	<ul style="list-style-type: none"> 就職内定率は100%を達成した。1級3種目以上取得者は12.5%で減少した。 	C		
	活動計画		活動計画の実施状況		
	① 学校行事を精選するとともに、欠講時間については可能な限り繰替授業にする。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事はほぼ例年どおりの実施であったが、自習になった授業は15時間減少した。 			

<p>②-1 「学力向上委員会」を各学期1回以上実施し、学力向上のための方策を検討する。</p>	<p>・「学力向上委員会」を1,2学期に各1回ずつ実施し、学力向上のための方策を協議した。</p>	<p>・進路検討会や個別面談の回数および就職内定率については目標を達成できた反面、家庭学習時間に課題が残った。特に3年生は4回の調査で4時間以上学習したことが1回もなかった。どの学年も6月がピークであり、これは課題テスト前であったことが理由であると思われる。</p>
<p>②-1 相互授業参観や授業研究会、職員研修等を年間2回以上実施して授業力の向上を図る。</p>	<p>・相互参観授業及び研究授業・授業研究会を1,2学期に各1回ずつ実施した。授業力向上に関する職員研修を2学期に1回実施した。</p>	
<p>②-1 授業評価アンケートを行い、その結果を授業改善につなげる。</p>	<p>・授業評価アンケートを1学期に1回実施し、2学期に結果を各先生に返して、授業改善につなげた。</p>	
<p>②-2 生活記録や生活実態調査を通して各クラスの生徒の状況を把握し、特に学習時間の確保ができるよう助言する。生活記録の全員提出をめざす。</p>	<p>・生活実態調査は1・2年生は年5回、3年生は年3回行った。生活記録は全クラスで毎日提出させているが、全員は提出できていない。</p>	
<p>②-2 放課後等に自習を行える環境を整え、主体的な学習活動ができるようにする。</p>	<p>・空き教室がないため、自習室を新たに設定することはできなかった。これまで通り教室での自習にとどまった。</p>	
<p>②-2 集会や面談等において学習時間の確保とその重要性を指導する。学習計画を立て、生活記録を書く習慣をつけさせる。</p>	<p>・各学年集会や各学期の始業式および終業式を通じて学習時間の確保とその重要性を指導した。また、クラス担任による面談での指導も行った。</p>	
<p>③-1 進路指導検討会で模試等の分析を行い、その後の学習指導に役立てる。</p>	<p>・1・2学期の3回の進路検討会においてマーク模試と記述模試それぞれの検討を行った。</p>	
<p>③-2 担任は面談をとおして生徒が適切な進路選択をできるように指導する。</p>	<p>・各学年においてその時期に応じた目標を提示し、生徒一人ひとりの希望や適性に応じた進路指導を行った。</p>	
<p>③-3 担任と進路課が連携し、適切な進路指導を行う。</p>	<p>・3年生はできたが、1・2年生は進路課との連携が少なかった。</p>	
<p>③-4 資格試験の受験を勧める。また、インターンシップ等体験的な活動を行う。</p>	<p>・インターンシップ商業科2年生100%参加。資格試験は部活動公式試合で受験ができない者以外、100%受験。</p>	

<p>[2] 中高一貫教育の 推進</p>	<p>① 中高教職員が連携して指導内容の工夫改善に取り組み、生徒の個性や能力を伸長させる。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 ESD（持続可能な開発のための教育）活動について連携し、合同の講演会や発表を年2回以上行う。</p> <p>①-2 中高教職員による相互授業参観や中高合同研修会を年2回以上実施する。</p> <p>①-3 複数の科目において中高教職員による授業交流を実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・ ESD に関する中高合同講演会を3回実施した。中高合同課題研究ポスター発表会を1回実施した。 A</p> <p>・ 相互参観授業及び授業研修会を1,2学期各1回実施した。 A</p> <p>・ 英語と数学については中3で授業交流を行っている。他教科については実施できていない。 B</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) ・ ESD 発表会での交流を今年度から行えるようになるのは前進であるが、さらに中高一貫教育のメリットを実感できるようにしていく必要がある。</p>	<p>① 中高一貫教育のメリットをさらに伸ばして実感できよう、また、県南になくてはならないオンリーワンの学校にできるよう、合同交流会等を通じて推進してもらいたい。</p> <p>② 中高一貫教育のメリットはめざす先輩に相談できる体制であり、高校生が中学生にアドバイスできる機会を作ることが大切である。</p> <p>③ 本当の意味での中高一貫教育はどういうものか、活動を振り返って、保護者とともに新しい目標を作りあげていくべきである。</p>	<p>○ ESD の活動を本校の特色として根付かせていけるよう、各種講演を企画し、課題研究の発展をはかりたい。課題研究は外部での発表ができるようなレベルのものに深めていきたい。</p> <p>○ 中高一貫教育のメリットを実感できるよう、効果があるような中高合同の行事をさらに計画し進めていきたい。中高一貫教育研究員会における協議を活性化させ、検討を深めていきたい。</p>
<p>[3] 人権尊重の意識・態度を育む「心の教育」の推進</p>	<p>① 生徒の自主的な活動を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 人権 HR 学習を年6回（3年生は5回）実施する。</p> <p>①-2 「富東人権新聞」を年6回発行、アピール放送を年2回実施する。</p> <p>①-3 生徒対象の人権教育関連行事を年1回以上実施する。</p> <p>①-4 高校3年生の卒業時のアンケートで「人権問題について意識し、差別をなくすために行動したい」とする回答合計が80%以上になることをめざす。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・ 人権 HR 学習を年6回（3年生は5回）実施することができた。 B</p> <p>・ 「富東人権新聞」を年6回発行、アピール放送を年2回実施することができた。 B</p> <p>・ 「インターネットと人権」の講演会を実施することができた。 B</p> <p>・ 「行動したい」という積極的な意見は20%、「学習することで意識をするようになった」という前向きな意見が77%であった。 C</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) ・ 人権 HR 活動は、各学年で指導案作成、検討会を学期ごとに行い、共通理解を図った上で実施することができた。内容に関しても、生徒の実態を踏まえ、話し合うことができた。</p>	<p>① 生徒に対して多くの活動や経験をさせていることにより、生徒が前向きに取り組むことができていないか。</p> <p>② 「富東人権新聞」の内容について、保護者と生徒が話をすることはいいことである。さらにその割合を高くしていくようにしてほしい。</p> <p>③ インターネットによる人権侵害がよく問題になっている。このことについて、さらに意識を高く持つようにしていかなければならない。</p>	<p>○ 継続的な啓発・学習が重要である。法の制定や社会の動きも把握しながら、生徒・保護者・教職員が意識を高められるよう、年間行事の時期、内容について課内で検討し、充実した研修・講演等になるよう努めたい。</p> <p>○ 「富東人権新聞」の発行を通じて、家族間で話し合いが持てるよう、今後も機会があるごとに呼びかけを継続したい。</p>

②学校・家庭・地域・関係機関との連携の緊密化と協力体制を構築する。

②-1 人権問題研修会を教員対象年3回以上、PTA対象年1回以上実施する。

・教職員対象に3回、PTA対象に1回、講演会等の研修会を実施することができた。

B

②-2 保護者対象アンケートで「人権を尊重するための様々な取組が行われている」が80%以上をめざす。

・「おおよそ当てはまる」以上の回答が87%であった。

A

活動計画

活動計画の実施状況

①-1 人権教育ホームルーム活動を充実させ、展開等の工夫をする。

・指導案を基に各学年で事前検討会を行い、共通理解を図って授業を実施することができた。

①-2 月1回の「富東人権の日」に「富東人権新聞」やアピール放送を使って啓発する。

・人権教育推進委員と担当教員が話し合いや推敲を重ねながら準備をし、啓発に努めることができた。

①-3 講演会等の企画の他、ポスター・標語の作品展示を通して啓発する。

・富東祭での人権啓発ポスター展や富東人権週間での作品展示を実施することができた。

①-4 卒業時にアンケートを実施し、入学時との意識の変化について考察する。

・実施したアンケートを基に教職員研修会を行い、今後の取り組みについて検討することができた。

②-1 講師を招いての講演会を企画したり、生徒のアンケート結果を考察したりして、教職員の人権意識を高める。

・「インターネットと人権」の講演会を開催したり、新入生対象の意識調査の結果を考察したりし、人権意識の高揚を図ることができた。

②-2 講師を招いての講演会等の企画をし、保護者への参加を呼びかける。

・「防災と人権」というテーマでPTA人権教育研修会を実施した。57名の保護者の参加があり、アンケートに回答した50名全員が「人権問題についての関心や理解が深まった」と答えた。

②-2 「富東人権新聞」を家庭に持ち帰り、保護者にも読んでもらい人権意識の高揚を図る等の継続的な啓発を行う。

・毎回の人権新聞発行時に、各家庭で話し合う機会を持つことを担任を通じて呼びかけてもらった。

・年度当初の教職員研修会では、新入生の意識調査結果をもとに考察し、新入生第1回目のHR活動でグループ討議を行うなど、生徒の意識付けに反映させることができた。

・3年間の学習で、人権学習の意義を、人前向きにとらえる生徒が大半を占めるが、積極的に行動したいという生徒を増やしていくことが今後の課題である。

・外部講師を招いた講演会を生徒対象、教職員対象、保護者対象に年間1回ずつ実施することができた。

・インターネットに関する講演会では、身近な問題として家族でも話し合いたいという生徒の感想が多かった。

・保護者対象の防災に関する講演会も同様で、参加してくれた保護者から家族と話し合いたいという意見が挙がっていた。人権新聞を通じての啓発とともに、家庭で話し合いたいと思えるような講演等の企画を考えていきたい。

・教職員に対しては新しい分野の人権問題についても知識・理解を深められるような内容を検討したい。

<p>[4] 豊かな心を育む 生徒指導</p>	<p>①挨拶、マナー等の基本的な生活習慣の確立と定着をめざす。</p> <p>②いじめや体罰を防止し、速やかに対応する。</p> <p>③教育的支援が必要な生徒を学校全体で支えていく体制を確立する。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>①富東の生徒はよく挨拶をしてくれる。挨拶、マナー等は社会生活において必要不可欠なものであるから、さらに向上できるようにしてほしい。</p> <p>②いじめ問題については迅速な対応が必要不可欠である。生徒の些細な変化を見逃すことなく、適切な対応ができるよう、今後も引き続き全教職員一丸となって取り組んでほしい。</p> <p>③思春期であるため、アンケートに「悩みを誰に相談しますか」の項目がなかったのは残念である。勉強のわからない点を相談できるなら、悩みも相談できる。ながらカウンセリング（階段をのぼりながら、掃除しながら話を聞く）も有効である。子どもの心をつかんで、生徒、保護者ともに相談しやすくなるようにしてほしい。</p>	<p>○年間を通しての遅刻者0人の日が少ないように思うので、富東タイムに遅れない指導を学年団にも協力してもらおう。</p> <p>○不登校傾向が見られる生徒が増えてきている。成績面だけではなく、本人が本来持っている良さを生かして生活ができるよう取り組んでいく。今年度実施できなかった研修の機会を設ける。</p>	
		<p>①-1年間遅刻回数20回以上の生徒を0人にする。登校日の遅刻者0人の日の割合を20%以上とする。</p>	<p>・年間遅刻回数20回以上の生徒を0人にする事は出来なかったが、登校日の遅刻者0人の日の割合22.6%であった。</p>	<p>B</p>			<p>(評定)</p> <p>B</p>
		<p>①-2身だしなみをきちんとできていると自己評価する生徒の割合を90%以上にする。</p>	<p>・身だしなみをきちんとできていると自己評価する生徒の割合は93.6%であった。</p>	<p>B</p>			<p>(所見)</p> <p>・基本的な生活習慣（服装・頭髪等）は、大多数の生徒が出来ている。</p>
		<p>②いじめと体罰に関するアンケートを各学期1回実施する。</p>	<p>・いじめと体罰に関するアンケートを各学期1回実施した。</p>	<p>B</p>			<p>・学校評価アンケートで「私は遅刻をしないと答えたら生徒が前年度までの平均2%から1%に減少した。</p>
		<p>③支援が必要な生徒に関する情報の共有を図る会を各学期1回及び教員研修を年1回実施する。</p>	<p>・必要とされる時に情報交換は行われたが、計画をたてていた教員研修が実施できなかったため、スクールカウンセラーからの資料提供を行った。</p>	<p>B</p>			<p>・朝練のある部活動に協力してもらい富東タイムに遅れる生徒や遅刻をする生徒も減少した。</p>
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>				<p>・公共交通機関での乗車マナーが身につくようJR・生徒会等と協力しマナーアップ活動を行った。</p>
		<p>①-1全教職員間で共通理解を図り、望ましい生活習慣の育成に努める。多遅刻者には、保護者への連絡を密にする。</p>	<p>・各学期の初めに中・高同日に昇降口指導を行った。多遅刻者には、保護者と連携を密に取っている。</p>				
		<p>①-2服装・頭髪・マナーについて集会やHRでの指導を通して自覚を高める。挨拶の励行や清掃活動への自主的な取組を促す。</p>	<p>・月に1回服装デーを正副担任で実施した。学年集会では全教員で服装頭髪検査を実施した。</p>				
		<p>②いじめ問題について集会やHRでの指導を通して啓発を行う。</p>	<p>・2学期始業式に啓発を行った。またアンケートの実施時等必要に応じてHRで担任から指導を行った。</p>				
		<p>③担任・教科担任・学年主任の連携を密にし、生徒の指導や支援にあたる。また、外部講師による教員研修を実施し、支援を必要とする生徒の共通理解を図る。</p>	<p>・スクールカウンセラーにカウンセリングを受けている生徒の情報交換はその生徒に関わる教員間では毎回行うことができた。</p>				

[5] 特別活動の充実		評価指標	評価指標による達成度	総合評価				
	① 部活動や生徒会活動等で自主的活動の育成を図ることと、文武両道のさわやかな校風を樹立する。	①-1 生徒会新聞を年3回以上発行し、生徒会や各種委員会の活動をPRする。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回程度発行したが、学校行事のアンケート結果・球技大会の結果を報告するにとどまった。来年度は学校を活性化させる内容の新聞を発行したい。 	B	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事においては、ほとんどのイベントを生徒会中心に実施することが出来た。その中で、学業との両立が難しいという理由で生徒会に入らない生徒もおり、負担にならないような生徒会活動の在り方も課題となっている。 部活動においては全国大会にも文化部4部、運動部4部が出場した。 ボランティア活動や日々の生活の中で、人のために動くことが人の心を動かすことをもう少し多くの生徒に理解してもらいたい。 清掃ボランティアは各学年によって時期を変えて実施することができた。行動のともなう環境教育をテーマとして次年度以降も継続していきたい。 	<p>① 部活動の入部率103%で目標を超えており、四国大会以上の出場部数は目標の倍以上の成果が出ている。先生方の指導の成果である。</p> <p>② 少しおとなしく、元気がないように感じる。「活力あふれる富東」にしてもらいたい。</p> <p>③ 地域との合同防災訓練は今後も続けていきたい。中高生と一緒にできるので喜んでいて。地域の参加者をさらに増やしていきたい。</p>	<p>○ 生徒会だけでなく、生徒全員が学校行事に積極的に参加し、活力あふれる富東を推進していくための取り組みを考える。その中心となる生徒会の充実と、中学校行事の活性化を図る。</p> <p>○ ごみゼロ運動を環境HR活動として位置づけ、次年度も継続して実施していきたい。領家町との合同防災避難訓練も引き続き実施していきたい。その際に地域住民の方々とともに避難経路の清掃を行うことで効果的に地域の美化活動に貢献できるのではないかと考える。</p>	
		①-2 球技大会のアンケートで満足度を70%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートで種目を決定、生徒会・運動部を中心に円滑に運営できた。事後アンケートの満足度は79.5%であった。 	A				
		①-3 部活動入部率85%以上とする。四国大会以上の大会への出場部数を5部以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介・見学の時間を設定し、積極的な入部を促した。複数入部も可能なので、入部率103%を達成できた。 各部とも努力し四国大会へ文化部2部、運動部9部が出場した。 	A				
		② ボランティア活動を充実させ、心豊かな人間性を育てる。	②-1 学校周辺の清掃ボランティアを年1回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> HR活動でゴミゼロ運動の日を設定し、学校周辺の校外清掃活動に取り組んだ。 				B
			②-2 地域のボランティア活動を年3回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 領家町との合同防災訓練・阿南市シニア体育大会・阿南市成人式にボランティアとして参加した。 				A
			活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 生徒会活動や各種委員会活動を活発にする。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な行事に積極的に参加する生徒が多かった。 					
		①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。	<ul style="list-style-type: none"> すべての学校行事において生徒会を中心として生徒主体の運営が出来、事後アンケートにおいても満足度が高かった。 					
		①-3 中高の部活動の交流を活性化させることで、協同の精神を育成する。部活動紹介等を充実させることで入部率を上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 文化部を中心に、中高合同練習や、中3生の高校部活への参加を実施した。今年の部活動紹介は少し盛り上がり欠けたので、来年度に向けて練り直す。 					

		<p>② 地域の防災避難訓練，成人式等のボランティア活動を通して社会貢献の意識を高め，奉仕の精神を育成する。</p>	<p>・ボランティア活動に参加する生徒がほぼ同じメンバーであったように思う。学校内でももっと機会を作る必要性を感じた。</p>	<p>・地域との合同防災避難訓練も今年で3回目となった。地域住民の参加も年々減少しているが，本校生徒や職員も自発的な参加者が少ないのが現状である。参加者を増やすために啓発を活発に行っていかなければいけない。</p>		
<p>[6] 心身ともに健康・安全をめざす環境教育・安全教育・食育の推進</p>	<p>①心身の健康管理と健康増進の積極的指導を推進する。</p> <p>②防災意識の高揚と環境美化に積極的に取り組む。</p> <p>③安全な登下校の徹底をめざす。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 「ほけんだより」を年8回以上発行する。感染症予防啓発を年3回以上行う。</p> <p>①-2 学校保健委員会を充実させ，年2回以上実施する。</p> <p>②-1 避難訓練を各学期1回以上実施する。</p> <p>②-2 アンケートで「校内美化活動に積極的に取り組んでいる」の割合が80%以上とする。</p> <p>②-3 電気・水道使用量を昨年度より削減させる。</p> <p>③ 登下校中の接触事故年間0件をめざす。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 「ほけんだより」を発行し，感染症への予防意識を高めるなど，健康教育を推進する。健康診断の円滑な実施を行う。</p> <p>①-2 保健委員がこまめに手洗い石けんやアルコール消毒液の補充に努める。保健委員会が中心となり富東祭での保健展を充実させる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・計画通り発行中である。3回は終了，3学期に1回行う予定である。 A</p> <p>・今年度は1回しかできなかった。 B</p> <p>・1学期に2回，2学期に2回実施した。3学期にも1回実施予定である。 A</p> <p>・「おおよそ当てはまる」以上の割合が75.9%であった。 C</p> <p>・水道使用量こそ減少傾向であるが電気使用量は各月で昨年を上回っている。 C</p> <p>・昨年の大きく下回っているが，4件発生している。 C</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・ほけんだよりを10回発行した。健康診断はその都度実施計画を配布し実施後にアンケートを行った。</p> <p>・補充は主に清掃分担の生徒が行った。行事の前には保健委員が補充をした。</p> <p>・1学期から準備に取り掛かり保健展を実施できた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) ・保健委員会を中心に活動を積極的に実施してきた。まだまだ自主性に欠けるので準備や資料収集の段階から，指導していきたい。</p> <p>・環境においては，ISO認定校として啓発を折に触れて行ってきたが残念ながら意識が高いとは言えない状況である。啓発を継続するとともに実効的な対策を講じなければいけない。</p> <p>・防災訓練については毎回想定を変えて実施し，臨機応変に対処できるよう工夫を重ねてきた。次年度以降も継続していきたい。</p>	<p>①心身の健康があつてこそ，子どもたちは有意義な高校生活を送ることができる。来年も引き続き啓発を続けてほしい。</p> <p>②避難訓練については，マンネリ化することなく，子どもが常に危機感を持つことが大切である。</p>	<p>○(食育の推進も含めて)保健委員会を中心に「ほけんだより」発行・学校祭での保健展・感染症予防への啓発活動のより一層の充実に努める。</p> <p>○学校保健委員会との連携を密にして，食育の推進や睡眠と健康の関係について学ぶ機会をつくる。</p> <p>○校内美化活動については一人ひとりのさらなる意識の高揚を図るために啓発活動を活発に実施していきたい。とくに清掃用具を大切に使うなど，ゴミの減量につながるような取組を行う必要がある。電気水道の使用量については節度のある使用が求められる。エアコンについては使用時間を明確にするなど具体的方策が必要であると思われる。</p> <p>○防災訓練については回数を重ねるだけではなく，あらゆる状況を設定してより実践的な訓練を行う必要がある。</p> <p>○通学路の危険な箇所をもう一度見直し，登下校中の接触事故を0件を目ざしたい。</p>

	<p>②-1 地震や津波に対する備えや対策について学び、自助と共助の精神を養う。多様な訓練を実施し、命を守るための実践力を養う。PDCAサイクルを確立し、より実践的な避難訓練とする。</p> <p>②-2 毎日の清掃活動を「5分前」にとりかかる姿勢を身につけ、校内の環境美化に取り組む。ゴミ削減のため、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。</p> <p>②-3 電気・水道使用量をグラフ化して広報し、節電・節水を呼びかける。</p> <p>③ 交通マナー、事故防止について集会やHRで指導を行う。</p>	<p>・各避難訓練において、毎回想定を変えて実施した。訓練後の意見を次の訓練に生かすことができた。</p> <p>・清掃開始の放送は毎日実施できた。省エネ環境委員により呼びかけを行った。</p> <p>・ISOコーナーや各教室に掲示して呼びかけた。</p> <p>・交通マナーアップを年間2回実施した。各学期に学年集会で事故防止の指導を実施した。</p>	<p>・登下校時の交通事故が去年は12件あったが、富東タイムに間に合うようにゆとりをもって登校するようHRや学年集会等で注意喚起をした。目標の0件は達成でいなかったが4件に減少した。</p>	
--	--	---	---	--

<p>[7] 家庭・地域社会との連携による「開かれた学校づくり」の推進</p>	<p>① ホームページを利用して積極的な情報発信を行う。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>① 保護者の意見を参考にしながら、学校運営を行うことが大切である。</p> <p>② ホームページをみるとその学校の取組の様子がよくわかる。頻りに更新されていると熱心に取り組んでいることがうかがえる。保護者、地域の方にその情報を発信するために、さらに更新回数を多くしてほしい。</p> <p>③ 保護者が学校行事に参加することは重要なことである。PTA総会以外にももっと保護者に來ていただけよう、いろいろな手立てを考えるべきである。</p>	<p>○ PTA 役員会やPTA総会などで意見を出し合い、十分検討することが必要である。</p> <p>○ より見やすく、わかりやすい学校ホームページになるよう改善していきたい。また、更新回数をさらに増やせるよう機会ある度に担当者に依頼していきたい。</p> <p>○ 各学年の保護者対象進路説明会の参加率を上げることが課題であり、そのためには内容をさらに充実させ、より積極的な呼びかけを行う。</p> <p>○ 中学生体験入学に参加した中学生から、前年度の参加者より高い評価を得ることが課題である。そのために、体験授業や体験部活動の内容をこれまでより充実させる必要がある。</p> <p>○ 環境や防災に関する講</p>		
		<p>①-1 ホームページのアクセス数が年間10万件以上になるようにする。</p>	<p>・ ホームページのアクセス数は、157,902件(4/15～1/17)だった。</p>	<p>B</p>			<p>(評定) B</p> <p>(所見) ・ ホームページの更新、アクセス数は、ともに目標を達成できた。次年度は、保護者や生徒に、ホームページの閲覧を啓発していくことが課題である。</p> <p>・ 各学年の保護者対象進路説明会について、3年生は参加率50%を達成したが、1・2年生はできなかった。特に1年生については保護者への参加の呼びかけをさらに強めていきたい。</p>	
		<p>①-2 ホームページの更新回数は、年間100回以上とする。</p>	<p>・ ホームページの更新回数は、年間163回だった。</p>	<p>A</p>				
		<p>①-3 「ひがし倶楽部」を年3回発行し、小中学校に配布する。</p>	<p>・ ホームページにて、すでに計画月に2回発行した。3回目は、3月に発行予定。</p>	<p>B</p>				
		<p>② PTA、同窓会、地域社会との連携を図る。</p>	<p>②-1 PTA総会の保護者参加率50%以上をめざす。</p>	<p>・ PTA総会の保護者参加率は、50.5%であり、今年度の目標は達成できた。</p>				<p>B</p>
		<p>②-2 各学年の「保護者対象進路説明会」保護者参加率50%以上をめざす。</p>	<p>・ 1年生は35%、2年生は46%、3年生は55%であった。</p>	<p>B</p>				
		<p>②-3 中学生体験入学、公開授業、文化祭一般公開日の来校者数は、昨年度超え(中学生体験入学350名以上、公開授業500名以上、文化祭一般公開1000名以上)をめざす。</p>	<p>・ 中学生体験入学319名(教員と保護者含む)、公開授業506名、文化祭一般公開1454名だった。</p>	<p>B</p>				

<p>②-4 環境や防災に関する講演会、地域との合同避難訓練の参加者（保護者及び地域の方々）の数を合計 100 名以上にする。</p>	<p>・地域の防災訓練には約 50 名が参加し、講演会には 3 名の保護者が参加した。</p>	<p>・環境防災の講演会については平日開催なので保護者の参加は難しい面があるが、きちんと生徒から保護者へ案内が届いているのか不透明である。その指導を徹底していきたい。防災訓練については保護者への案内ができていないので、次年度は行いたい。</p>	<p>演会は、実生活のなかで生かせるようなテーマを基本に計画を立てる必要がある。また、生徒の進路選択の一助となるようなテーマ設定も重要である。また、講演会のふりかえりを HR 活動として位置づけたい。</p>
<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		
<p>①-1 更新回数を増やすことで、アクセス数を増やす。</p>	<p>・更新回数は増えた。アクセス数も、目標（10 万件以上）を達成できた。</p>		
<p>②-1 学校の各種活動に関心を高めてもらえるよう HP の活用を図る。</p>	<p>・教育活動の発信について、教員の意識と保護者・生徒の意識に開きがある。閲覧の啓発が課題。</p>		
<p>②-2 進路に関する情報提供を積極的に行う。</p>	<p>・各クラスに進路雑誌を配付するなどして情報提供に努めた。</p>		
<p>②-3 HP や学校訪問等により、本校の広報活動を広く行う。</p>	<p>・学校の活動状況を適切に発信しているかとの問いに、よく当てはまる、おおよそ当てはまるを合わせると、教員 81.4 %、保護者 76.9 %、生徒 65.3 %であった。</p>		
<p>②-4 環境や防災に関する講演会を各 1 回ずつ実施し、地域や保護者に対する啓発に貢献する。</p>	<p>・ESD に関連して環境に関する講演会は 3 回実施した。防災講演会は 7 月に実施した。</p>		
<p>②-4 自主防災組織との合同訓練を行うことで、地域住民との連携を図り、共助の精神を養う。</p>	<p>・11 月 6 日に実施した。本校からは中高防災クラブ員と各部活動有志の約 100 名が参加し、地域住民は約 50 名が参加した。救命講習をはじめ、避難所設営や炊き出しなど有意義な訓練が実施できた。</p>		
<p>②-4 防災クラブが中心となって避難経路の清掃を実施し、地域の美化と安全に貢献する。</p>	<p>・ごみゼロ運動と連携し、地域の清掃活動を行った。</p>		<p>○防災クラブの活動は地域との連携は定着してきたので、それをさらに発展させたい。避難所運営や防災キャンプ等、これまで実施できていないような活動を通して、生徒・職員の意識の高揚に努めたい。</p>

[8]
教職員の資質向上

①教職員が自発的・積極的に校内外の研修に参加し、自己研鑽に努める

評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
①-1 相互授業参観を年2回以上、研究授業及び授業研究会を年3回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 相互参観授業及び授業研究会を1, 2学期各1回実施した。 	B	(評定)	○ ICT の活用やアクティブラーニングなど授業改善に積極的に取り組む教員はまだまだ多いとはいえない状況である。さらに増やしていけるよう、ICT の環境整備を進め、アクティブラーニング及び高大接続に関する校内外の研修の機会を増やし奨励していきたい。
①-2 教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」、「授業に様々な工夫をしている」と答えた生徒がそれぞれ80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> 「熱心に授業に取り組んでいる」とする生徒は「おおよそ当てはまる」以上が83%、「授業に様々な工夫をしている」とする生徒は「おおよそ当てはまる」以上が73%であった。 	B	(所見) <ul style="list-style-type: none"> 今年アクティブラーニング等の希望研修が多くあり、職員に案内したが、あまり希望者はいなかった。もっと積極的に校外研修に参加できるように、呼びかけと雰囲気作りを行いたい。 	○ 授業力向上セミナーに参加する教員が固定されつつあることが課題である。今年参加できなかった教員を中心に参加を呼びかけていきたい。
①-3 外部講師による職員研修会を年間5回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ESD, 情報セキュリティ, 救急救命, 人権教育, 学力向上について職員研修会を各1回, 計5回実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内では、多忙な中であるが、さらに効果的に研修を実施して、大きく授業力が向上するように努めたい。 	
①-4 校外における研修（指導力向上研修等）に10名以上参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 教員対象授業力向上セミナーにのべ12名が参加した。内訳は夏期教育研究セミナーに英語4名, 国語2名, 数学2名, 地理歴史1名, 理科1名, 冬期教育研究セミナーに国語2名である。 	A		
活動計画	活動計画の実施状況			
①-1 授業研究や相互参観授業を効果的に実施し、授業力向上に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> 相互参観授業及び授業研究会を1, 2学期各1回実施した。今後も授業力向上のための活動を計画していきたい。 			
①-2 教材研究にあてる時間を確保し、アクティブラーニングやICTの活用を積極的に取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ICT の活用やアクティブラーニングなど授業改善に取り組んでいるとする教職員で「おおよそ当てはまる」以上が77%であった。 			
①-3 教育相談、学力向上等に関する研修会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に教育相談の研修会を計画していたが行事等の都合で実施することができなかった。 学力向上の研修会は12月に実施した。 			
①-4 校外研修を教職員に広報し、研修を勧める。	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関する校外研修を広報し、研修を勧めた。 			